

平成22年度
(2010)

授 業 概 要
(授業シラバス)

徳島大学 全学共通教育

目次

第1章 前期	1
1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)	3
1.1 《大学入門講座》 (Introduction to University Education)	4
2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)	7
2.1 《歴史と文化》 (History and Culture)	8
2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)	9
2.3 《生活と社会》 (Living and Society)	10
3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)	11
3.1 《ウェルネス総合演習》 (Integrated Seminar on Wellness)	12
4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)	13
4.1 《英語》 (English)	14
4.2 《ドイツ語》 (German)	16
4.3 《情報科学》 (Information Science)	17
5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)	19
5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)	20
5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)	21
6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)	23
第2章 後期	25
1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)	27
1.1 《歴史と文化》 (History and Culture)	28
1.2 《生活と社会》 (Living and Society)	30
1.3 《自然と技術》 (Science and Technology)	31
2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)	33
2.1 《共創型学習》 (Creativity Development)	34
3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)	35
3.1 《英語》 (English)	36
3.2 《ドイツ語》 (German)	38
4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)	39
4.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)	40

第1章

前期

1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)

大学入門講座

大学入門講座 (工・建設)(夜) ... (夜間主 (建 1 年)) / 成行・河口 / 前期 集中	4
大学入門講座 (工・機械)(夜) ... (夜間主 (機 1 年)) / 学生委員会委員 / 前期 集中	4
大学入門講座 (工・化学)(夜) ... (夜間主 (化 1 年)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	4
大学入門講座 (工・生物)(夜) ... (夜間主 (生 1 年)) / 教務委員会委員 / 前期 集中	5
大学入門講座 (工・電気電子)(夜) ... (夜間主 (電 1 年)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	5
大学入門講座 (工・知能)(夜) ... (夜間主 (知 1 年)) / 教務委員会委員・泓田 / 前期 集中	5

1.1 《大学入門講座》(Introduction to University Education)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・建設)(夜) (夜間主(建1年))

Introduction to University Education

成行 義文・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

河口 洋一・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう各学部学科に応じて構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【キーワード】 導入授業、大学入門、オリエンテーション

【関連科目】 『学びの技』(1.0)

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 心と体の健康 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・対話の重要性 コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びのしくみ・学習支援室 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介します。 5. 建設工学科のおいたちと教育目標 本学の建設工学科の創立から現在までの歴史を紹介し、本学科の教育目標を建設技術者に求められる資質と関連づけて説明する。 6. 建設関連施設の見学 建設関連施設を1, 2箇所見学し、ものづくりの流れや、大学で習得すべき事項等について説明する。 7. 防災センターの見学 徳島県立防災センターを見学し、防災への取り組み事例等を介して、大学で習得すべき事項等について説明する。 8. 自分の将来像と大学生活 グループで各自の将来像や夢について語り、夢を実現するために如何に大学で学ぶかについて討議し、検討結果を発表する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【授業へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたてて大学生活を過ごしましょう。

【WEB 頁】 <http://ksys.ce.tokushima-u.ac.jp/mizuguchi/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200633>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 成行 (A510, 088-656-7326, nariyuki@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

⇒ 河口 (308, 088-656-9025, kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜午後)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・機械)(夜) (夜間主(機1年))

Introduction to University Education

学生委員会委員/工学部 機械工学科

1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なっ

た学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【キーワード】 機械工学科、履修計画、大学生活

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 2. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。 3. 附属図書館からのオリエンテーション 4. 学びの相談について 5. 学生委員からの諸注意 6. 教務委員からの諸注意 7. 履修計画の作成 1 8. 履修計画の作成 2 9. 履修登録 10. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 11. 学びと倫理 人間また技術者として、何を身につけなければならないか、その基本を理解する。 12. レポートの書き方 その意味と書き方について説明する。またプレゼンテーションの重要性を説く。 13. 機械工学の生い立ち、教育理念・教育目標・教育方針を説明し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 14. 進路の探し方 これからの生き方、進学、就職等の状況と心構えを説明する。 15. パソコンを使う 情報を収集・発信するためのテクニックを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 ()

【授業へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたてて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200635>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 未包 (M521, suekane@me.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 機械工学科・教務委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・化学)(夜) (夜間主(化1年))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 化学応用工学科

学生委員会委員/工学部 化学応用工学科

1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学で学ぶために必要な術を、化学応用工学科の教員を始め、徳島大学の教員が各方面から講述します。

【キーワード】 学生生活、学習、コミュニケーション

【到達目標】 大学での学びに関する全体像が把握できること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 大学で学ぶとはどういうことか、化学応用工学科で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を紹介する。 3. 情報を検索する方法として、基本的なインターネットの利用方法を紹介します。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介します。 5. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 6. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 7. ものづくりのすすめ(創成学習開発センターと創成科目を紹介する) 8. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

【教科書】 『「学びの技」はじめの一步』

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200631>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森賀 (M603, 088-656-7423, moriga@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: 月曜日15:00~17:00 工学部化学・生物棟312号室)

⇒ 藪谷 (化 605, 088-656-7413, yabutani@chem.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・生物)(夜) (夜間主 (生 1 年))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 生物工学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学での学習・生活は高校までとは異なり、積極的に取り組む自己責任が要求される。自己責任の達成には、入学から卒業するまでの間に生物工学科で何を学び (学習目標)、学んだことを将来どのように生かすか (将来像) をしっかりと持つことが必要である。これからの勉学や健康的な生活を送るうえで、基本的に重要な事柄を学び、大学での学習と生活の方法、学習目標と将来像などについて全体的に理解することを目的とする。

【授業の概要】 授業では、履修の手引 (講義シラバス)、学生生活の手引、学びの技はじめの一步をテキストとして使い、教員の経験を織りまぜながら、生物工学科の教育目標、カリキュラム、学習方法、成績評価、大学生に要求される能力、健康的な学生生活、また卒業後の進路について説明するとともに、討論を通じて学生自身の大学での学習目標や自分の将来像などについて考える。

【到達目標】 大学における健康で有意義な生活を達成するための学び方について理解し、将来について考える。

【授業の計画】 1. 大学生とは? 生物工学科とは? 大学院とは? 教員や先輩の対談を含めて学習する。 2. 生物工学科の教育目標とカリキュラムについて学習する。 3. 全学共通科目と専門科目、単位制、Web 登録、講義ノートのとり方、レポートのまとめ方、評価方法、ポートフォリオの作り方などについて学習する。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学習する。 5. 学びのしくみ・学習支援室の紹介、教育の理念・目標や教育方針、これから 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 6. 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用、心と体の健康管理法とその重要性、及び注意が必要な感染症について学習する。 7. 読書の重要性、またコミュニケーションのために自分の意見を構築して発表することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力の重要性について認識する。 8. 大学生活における目標と自分の将来像について考える。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步 徳島大学工学部導入教育テキスト、平成 18 年度「履修の手引」講義概要 (シラバス)

【成績評価の方法】 到達目標の達成度をレポート、プレゼンテーションによって評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 何のため何をどのように学ぶのかを考え、有意義な大学生活を送ろう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200637>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長宗 (化生棟 707, 088-656-7525, nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 学科長)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・電気電子)(夜) (夜間主 (電 1 年))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 電気電子工学科
学生委員会委員/工学部 電気電子工学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか、これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学

習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。電気電子工学科の紹介をはじめ、国際化も視野に入れた各自の将来像を描き、それに向かうための目標について考えます。また、充実した学生生活を送るための種々の情報を修得し、それらを通じて、「自ら学び」「自ら考える」姿勢が身につくことを目標とします。

【キーワード】 電気電子工学科、大学生活、履修計画、履修登録

【到達目標】 大学での学びのしくみを理解し、何をなぜ学ぶかを知り、学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介、酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに、学習支援室の上手な利用方法を紹介し、4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 電気電子工学科とは: 電気電子工学科の紹介、カリキュラムの概要および教育目標との関係を理解する。 5. 電気電子技術者としての将来像および各自の学習目標について考え、自分と社会の将来像を描いてみる。 6. 全学共通教育の履修・学習方法: 全学共通教育の意義・目的、単位とは何か等を理解し、履修・学習方法を考え、履修計画を作成する。 7. 専門教育科目の履修・学習方法: 各学年での専門教育学習の意味と学習方法を説明し、大学院を含めた 6 年間の一環教育としての履修・学習方法を考える。 8. 学生生活の道しるべ 有意義な学生生活を送るための情報を活用する。 9. 施設見学: 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。

【教科書】 工学部 『学びの技』はじめの一步、『履修の手引き』、『学生生活の手引き』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200641>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

⇒ 学生委員会委員

⇒ 電気電子工学科 1 年クラス担任

⇒ 下村 (E 棟 2 階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00 ※掲示板で確認された。)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・知能)(夜) (夜間主 (知 1 年))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 知能情報工学科、弘田 正雄 准教授/工学部
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学では、高校までとは異なった、学ぶ姿勢が必要である。これからの学習において重要となる様々なことについてその全体像を把握し、深く学ぶために必要な事柄を理解してもらうことを目的とする。

【授業の概要】 大学における授業の形態、学び方、発表技術、および、レポートの作成技術について説明する。

【キーワード】 大学入学、学生生活、履修登録

【到達目標】 大学で何をなぜ学ぶかを知り、その学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】 1. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。 2. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 3. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 4. 学びのしくみ・学習支援室 教育の理念・目標や教育方針、そして学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これから 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 5. スライドを作成して効果的に発表するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶ。 6. PowerPoint を用いたスライドの作成法を学ぶ。 7. レポートを分かりやすくまとめるためのテクニカルライティング・スキルを学ぶ。 8. Latex を用いたレポートの作成法を学ぶ。 9. 教員と大学院学生との小グループ討論 1. 大学で大事なことは何か? 10. 教員と大学院学生との小グループ討論 2. 学習及び学生生活上の指導、大学生活の上手な過ごし方。 11. 教員と大学院学生との小グループ討論 3. 4 年間のマイルストーン、講義概要・創成科目の説明、就職・進路。 12. 履修方法の説明・指導、時間割の組み方。 13. 履修登録システムのガイダンス。 14. Web 履修登録 1. 15. Web 履修登録 2. 16. 質疑応答。

【教科書】

全学共通教育 (2010) 〉 前期・【大学入門科目群】・《大学入門講座》

- ◇ 履修の手引き, 「学びの技」はじめの一歩, 学生生活の手引き
- ◇ 配布するプリント

【成績評価の方法】 授業への参加姿勢とレポートにより評価し, 単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 新入生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200639>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 教務委員会委員 (オフィスアワー: 学科に掲示してある「教職員名簿」を参照)
- ⇒ 泓田 (Dr. 棟 603, 088-656-7564, fuketa@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 学科に掲示してある「教職員名簿」を参照)

2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

戦国時代から近世社会への変化 ... (夜間主)/ 桑原/ 前期 月 13・14	8
日本図の歴史 ... (夜間主)/ 平井/ 前期 月 13・14	8

人間と生命

古代ギリシアの人と思想 ... (夜間主)/ 吉田/ 前期 木 11・12	9
知覚の心理学 ... (夜間主)/ 濱田/ 前期 木 11・12	9
環境とバイオテクノロジー ... (夜間主)/ 佐藤/ 前期 木 11・12	9

生活と社会

法学入門 ... (夜間主)/ 清水/ 前期 月 13・14	10
人材マネジメント ... (夜間主)/ 西村/ 前期 月 13・14	10

2.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

戦国時代から近世社会への変化

(夜間主)

History of Early Edo

桑原 恵 教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史学は、過去に人間が社会をどのように作り、そのときの社会が抱える問題を解決してきたかを知ることのできる学問である。特に変動の激しい現代の社会を生きるとき、日本の歴史から学ぶことも多い。また、日本の歴史についての知識は、国際化の時代においても必須の教養である。私たちは、自らの国の歴史を知っているようでも案外知らないものである。社会の組織やそれぞれの社会の通念などは、個々の人間から見れば、既成のものようであるが、歴史的に見れば、すべて人間が作り上げたものである。講義では、歴史学を単なる暗記の学問として、過去の研究成果から得られた通説的理解のみを学生に講義することはない。史料に基づいて、歴史学的に物事を考察する方法を講義したいと考えている。

【授業の概要】 本講義では、歴史をこのような観点から捉え、近世社会の成立とその展開について講義する。講義では、出来る限り史料を提示し、その意味と歴史的意義付けについて説明しながら、講義を進めていく。そして、中世社会から近世社会への変容と、近世社会の展開によるその変容について講義する。

【キーワード】 戦国時代、江戸時代、豊臣政権

【到達目標】 史料に基づきながら、江戸時代の成立に際して起こった社会の変化の原因とその様相を理解する。

【授業の計画】 1. 講義計画と基礎知識の確認 2. 戦国大名の領土拡大権 3. 豊臣政権の成立と戦国大名 4. 戦国時代の農村と武力 5. 豊臣政権の成立による農村の変化 6. 太閤検地とその歴史的意義 7. 武士と農民の分離 8. 江戸幕府の確立と老中制の成立 9. 農村の自治と農民の生活 10. 都市の建設と町人の活躍 11. 道頓堀や難波村の開発と町人 12. 江戸時代の経済システム 13. 商業経済の活発化と社会の変化 14. 経済の変化と社会問題 ~ 享保の改革など ~ 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

◇ 教科書は、指定しない。授業中使用するプリントと資料は適宜配布する。

◇ 参考となる本は、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中に抜き打ちで行う小テスト、もしくは期末試験の結果をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 暗記中心のテストは実施しない。理解しやすい講義とするために、受講生の質問なども歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203215>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで連絡をいただければ回答します。又時間の調整もします。 megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

歴史と文化 (History and Culture)

日本図の歴史

(夜間主)

Pre-Modern Japanese Maps

平井 松午 教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 様々なスケールの「地域」を研究対象とする地理学にとって、「地域」に関する資料をどのように分析し解釈するかは、重要な研究手続となる。この授業では、古代から近代までの各時代ごとに描かれた各種の日本図を手がかりに、国土・世界に対する日本人の地理観の一端を紹介するとともに、日本図の変遷にみる科学的側面について歴史地理学的見地から考察していくことも目的としている。

【授業の概要】 授業では、古代から幕末・明治に至るまでの日本を描いた多様な古地図を、プリント、パソコンによるデジタルデータなどを用いて紹介する。取り上げるおもな古地図は、日本およびその周辺地域を題材としたもので、絵図の記載内容や画像表現から、絵図作成の目的や、そこに描かれている地域像・社会背景などについて解説する。

【キーワード】 地理学、歴史地理学、古地図、地理情報システム

【関連科目】 『生活と社会/暮らしと地図』(0.5)

【到達目標】 絵図が作成されてきた時代ごとの社会背景と技術的発展過程の相互関係が理解できること。

【授業の計画】 1. 見取図と実測図 -絵図と地図の違い- 2. 古代律令体制と国郡図 3. 最古の日本図「行基図」-中世の日本図- 4. 「行基図」

と「海山潮陸図」-近世初頭の日本図- 5. 「五天竺図」と「世界図屏風」-日本人の世界観- 6. 幕藩体制の確立と幕府撰国絵図 7. 近世阿波の国絵図 -6 期の国絵図- 8. 国絵図と日本図総図 9. 道中絵図と「改正日本輿地路程全図」-普及版日本図- 10. 蘭学の発達と世界地理書の刊行 11. 紅毛流規矩術と実測分間絵図 12. 伊能忠敬の全国測量 13. 「大日本沿海輿地全図」とシーボルト事件 14. 間宮林蔵と北方図 15. 期末試験 16. 「日本図の歴史」授業のまとめ

【教科書】

◇ 教科書は使用せず、授業の際に資料プリントを配付する。なお、手近な参考図書としては次のものがある。

◇ 久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補 地図と文化』地人書房、織田武雄『地図の歴史 日本篇』講談社新書

【成績評価の方法】 授業中に数回行う小テストや課題レポート、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験結果による評価を併用して総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 徳島大学附属図書館のホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>) の「古地図・絵図 (貴重資料高精細デジタルアーカイブ)」には、図書館が所蔵する各種絵図 (国絵図、伊能図、世界図など) が掲載されているので、参照のこと。

【WEB 頁】 <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200848>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 月曜日 17:00-19:30 地理学(平井)研究室(総合科学 1号館南棟1階))

2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)

人間と生命 (Humanity and Life)

古代ギリシアの人と思想

Greek Philosophers

(夜間主)

吉田 昌市・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 古代ギリシアの思想のなかから、興味深いテーマや興味深い人物などを選んで授業を行う。歴史的な知識を得させることを目的とはしない。思想や哲学を学ぶということは、思想家、哲学者と言われる人々が残したものに触発され、自分でものを考えはじめることであろう。そのためには、彼らが残したものをじっくりと読み、彼らの言葉に耳を傾けることが不可欠である。この授業を、そうした意味での読み、そして聴く時間にして、それは、現代という時代の中で不可欠な、自立した批判的精神をはぐくむのに有用なはずである。

【授業の概要】 上記の目的を達成するために、あるまとまった分量のテキストを、古代ギリシアを中心とした哲学者・思想家のなかから選んで、受講生諸君に提示する。実際に読むのは受講生諸君みずからであり、教師は読むための手助けができるだけである。

【キーワード】 社会と自然、エロース、論理、知

【到達目標】 既にもっている考えや立場を一度疑い、吟味する態度を、幾分かでも身につけること。

【授業の計画】 1. 人間を越えるもの:ヘラクレイトス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 2. 人間を越えるもの(続):ヘラクレイトス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 3. 論理:パルメニデスとゼノン 4. 論理(続):パルメニデスとゼノン 5. いかに生きるべきか(その一):『ノモスとピュシス』の思潮と『ソクラテスの弁明』 6. いかに生きるべきか(その二):『ノモスとピュシス』の思潮と『ソクラテスの弁明』 7. いかに生きるべきか(その三):『ノモスとピュシス』の思潮と『ソクラテスの弁明』 8. エロースとは何か:プラトン『饗宴』より 9. エロースとは何か(その二):プラトン『饗宴』より 10. エロースとは何か(その三):プラトン『饗宴』より 11. 「無知の知」:プラトン『ソクラテスの弁明』より 12. 「無知の知」続:プラトン『ソクラテスの弁明』より 13. 「知る」とは?(その一):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 14. 「知る」とは?(その二):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 15. 成績評価のために使用する。 16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 なし。資料となるプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 主な参考文献は次の通り。
- ◇ 広川 洋一 『ソクラテス以前の哲学者』 講談社(単行本および学術文庫版)
- ◇ 田中美知太郎 『ソクラテス』 岩波新書
- ◇ 同上 『ソフィスト』 講談社学術文庫
- ◇ F. M. コーンフォード 『ソクラテス以前以後』 岩波文庫
- ◇ A. コイレ 『プラトン』 みすず書房
- ◇ R. S. ブラック 『プラトン入門』 岩波文庫
- ◇ 藤沢令夫 『プラトンの哲学』 岩波新書
- ◇ 藤沢令夫 『ギリシア哲学と現代』 岩波新書

【成績評価の方法】 おおよその目安として:授業への取り組み方 (30%)+何度か行う予定の小テスト (20%)+学期末の試験 (50%)

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行いが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200772>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (4-403,4, 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

知覚の心理学

Introduction to Perception

(夜間主)

濱田 治良・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚的世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのだろうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を

論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。また心理学的・人間工学的見地から人間の知覚を考察する。

【授業の概要】 錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしさを示している。そこで日常生活で経験する知覚現象を心理学的・人間工学的に考察する。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 人間の知覚

【到達目標】 人間の知覚に関する現象や実験を通して得られたデータを理解し、それらから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】 1. 授業は概ね次の 5 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心にして講義を進めます。 2. 1. 輪郭線知覚 3. マッハ・バンドとクレイク・オブライエン効果 4. 2. 主観的輪郭線 5. 主観的輪郭線と透明視 6. 3. 明るさ知覚 7. 明るさの対比・同化・恒常性 8. 4. 幾何学的錯視 9. 大きさ錯視における対比と同化、大きさ・距離不変仮説 10. 5. 知覚の体制化 11. 図と地・群化の要因

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。

【参考書等】 参考書として松田隆夫著「視知覚」培風館を勧める。

【成績評価の方法】 中間試験 (40%), 期末試験 (40%), レポート、出席率により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 知覚心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203190>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間と生命 (Humanity and Life)

環境とバイオテクノロジー

(夜間主)

Environment and Biotechnology

佐藤 高則・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 近年、バイオテクノロジーの発展はめざましく、我々の周りにはバイオテクノロジーを利用した製品が数多く見受けられる。また、バイオエタノールのように生物資源を利用した環境関連のバイオテクノロジーも発展している。こうしたバイオテクノロジーや環境との関係に対しては、基礎知識を正しく理解し、自分の意見を持つことが重要である。本講義は、バイオテクノロジーの生体高分子・産業・環境への利用の現状に対して幅広く見識を広げることが目的としている。

【授業の概要】 生体高分子の基礎から、種々のバイオテクノロジー技術およびその環境への応用まで幅広く講義し、バイオテクノロジーの恩恵とその功罪について述べる。

【キーワード】 生体高分子、バイオテクノロジー、遺伝子組換え、環境

【到達目標】

1. バイオテクノロジーの理解
2. バイオテクノロジーと生体高分子や環境の関連の理解
3. バイオテクノロジーに対する自分の意見を持てるようになる

【授業の計画】 1. シラバスの説明、講義概要 2. 生体高分子の基礎 (1) 3. 生体高分子の基礎 (2) 4. 生体高分子の機能・構造 5. バイオテクノロジーの歴史および概論 (1) 6. バイオテクノロジーの歴史および概論 (2) 7. 遺伝子工学と応用 8. タンパク質工学と応用 9. 酵素工学と応用 10. 微生物工学と応用 11. 環境工学と応用 12. 遺伝子組換え作物 13. バイオリソースとその利用 14. バイオテクノロジーの将来と問題点 (1)、課題レポートの説明 15. バイオテクノロジーの将来と問題点 (2)、課題レポートの説明 16. 統括授業

【教科書】 プリントを適宜配布する。

【参考書等】 熊谷・金谷編:生命工学—分子から環境まで—(共立出版)

【成績評価の方法】 毎回の課題 60%, 定期レポート 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回、課題を出しますので出席してください。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203191>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日9:00-17:00)

2.3 《生活と社会》(Living and Society)

生活と社会(Living and Society)

法学入門

Introduction to Law

(夜間主)

清水 真人 講師/総合科学部

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『法学』)

【授業の目的】 本講義は、法律をはじめて学ぶ学生を対象に、主として私法分野における法学の基本的な考え方を理解していただくことを目的とします。私たちの市民生活は法律と密接に関係しています。法学の考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養っていただきたいと思ひます。

【授業の概要】 新聞記事・雑誌記事等を用いて身近な法律問題について皆さんと一緒に考えたいと思ひます。

【キーワード】 法学

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 私たちの身の回りに存在する法律問題について考える。
2. 法学的な考え方を身につける。

【授業の計画】 1. 私法の学び方 2. 法の分類と私法の意義 3. 私法の基本原理 4. 私法の法源 5. 私法の効力 6. 私法の適用と解釈 7. 私法上の権利 8. 権利の主体 9. 権利の客体 10. 法律行為 11. 違法行為 12. 消滅時効 13. 民事手続法(1) 14. 民事手続法(2) 15. 総括 16. 試験

【教科書】 五十嵐清『私法入門〔改訂3版〕』(有斐閣, 2007), 小型六法を各自用意して下さい。

【成績評価の方法】 成績は、出席、レポート、期末試験等によって評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203203>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

生活と社会(Living and Society)

人材マネジメント

Human Resource Management

西村 孝史 准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『経営学』)

【授業の目的】 人材マネジメントは、人的資源管理論、人事管理論、あるいは労務管理論とも呼ばれ、人・金・モノ・情報といった経営資源の中でも人に注目した講義です。企業の中で働くとはどういうことなのか、お金さえ払えば、人は懸命に働いてくれるのかなどを考えます。同時に派遣労働や格差、ワーキングプアなど最新のトピックを事例を交えて説明します。

【授業の概要】 企業や組織が目的を達成するためにどのように人材を活用しなければならないのかを理論的側面と事例から説明します。一部の授業でゲストスピーカーもしくは DVD の視聴を考えています。

【キーワード】 人材マネジメント、モチベーション、リーダーシップ、キャリア、働き方の多様化

【関連科目】 『生活と社会/経営学入門』(0.5)

【到達目標】 営利組織であっても、非営利組織であっても、何からの形で人材を管理する必要があります。アルバイトでお金をもらうことやアルバイトという就業形態そのものも人材マネジメントの 1 つです。自分がどのような条件だったら働いてもいいと思うのかを授業を通じて考えてみてください。

【授業の計画】 1. イントロダクション、講義概要説明 2. 経営学の基礎: 経営学の位置づけと企業の特徴 3. 経営学の基礎: 学説史的理解 4. 人材マネジメントとは何か 5. 人材マネジメントを行うための組織構造 6. 働く人のモチベーション 1: 内容理論 7. 働く人のモチベーション 2: 過程理論 8. リーダーシップ 9. 人事制度の基礎: 配置と異動 10. 人事制度の基礎: 育成とキャリアデザイン 11. 人事制度の基礎: 人材の評価 12. 人事制度の基礎: 賃金と昇進・昇格 13. ゲストスピーカーまたは DVD 14. 働き方の多様化とワークライフバランス 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】

- ◇ 守島基博(2004)『人材マネジメント入門』日経文庫
- ◇ 佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ。

【成績評価の方法】 出席点が 20%、期末試験 80%を考えています(但し、受講人数によって変更の可能性があります。その場合は事前にアナウンスします)。

【再試験の有無】 行わない

【講師へのメッセージ】 この科目は、昨年度、昼間に開講していた人材マネジメントと同内容の講義を夜間に開講するものです。教師がパワーポイントを用いて講義を行う形式です。授業中出席を兼ねたミニレポートやコメントを求めることがあります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=204180>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西村(総合科学部 1 号館 2 階中棟(2215), 088-656-7171, t-nishim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜日 12:00-16:00 経営組織論研究室(2215), それ以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できます。2010 年 4 月以降は、総合科学部 1 号館 3F 中棟になります。)

3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ... (夜間主 (全1年)) / 行實 / 前期 月 11・12	12
---	----

3.1 《ウェルネス総合演習》(Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (夜間主 (全1年))
Integrated Seminar on Wellness
行實 鉄平・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 月 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 「ウェルネス」とは、疾病や障害の有無にかかわらず、心の豊かさ・生命の尊厳を大切に、食・身体活動・休養・睡眠をバランスよく取り入れて生活習慣を改善し、生活の質 (QOL) を高めて生涯にわたるより健康なライフスタイルの確立を目指す生き方 ((財) 日本ウェルネス協会) として捉えられている言葉である。本授業では、そのなかでも運動・スポーツと QOL との関係性を体験的に学習することにより、ウェルネスの理解を深めていくことを目的としている。

【授業の概要】 この授業では、形態・身体組成、健康体力、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定・調査方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ (バドミントン) も体験してもらおう。また、健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みについての講義も行う。学生には、これらを通して積極的に健康的な生活を設計し実践する能力、いわゆる「ウェルネス実践能力」を養ってもらいたい。

【キーワード】 ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツとの多様な関わり (する・みる・ささえる)

【到達目標】

1. “ウェルネスとは何か?”, またその必要性を理解する。
2. 自らの身体理解と、その測定・調査・トレーニング方法を理解する。
3. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごそうとする積極的な姿勢を身につける。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みを理解する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. ウェルネスとは! (健康づくり概論) 3. 形態・身体組成の測定法 4. 体力・持久力の測定法 5. 健康・栄養調査 6. バドミントン (ラケットを使いこなす) 7. “ (シャトルコントロール) 8. “ (各種フライト) 9. “ (フットワーク) 10. “ (総合練習:シングルス) 11. “ (総合練習:シングルス) 12. “ (総合練習:ダブルス) 13. “ (総合練習:ダブルス) 14. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みとは! 15. 期末試験 16. 授業の総括

【教科書】 基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加意欲、他者との積極的なかかわりや集団内での協調性、そして試験といった 3 つの観点から総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200183>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 行實 .

4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

基盤英語

基盤英語 ... (夜間主 ((建・電)1年)) / ギュンター / 前期 火 11・12.....	14
基盤英語 ... (夜間主 ((化・生・知)1年)) / 魚崎 / 前期 火 11・12.....	14
基盤英語 ... (夜間主 ((建・機・電)1年)) / 貝沼 / 前期 水 13・14.....	14
基盤英語 ... (夜間主 ((化・生・知)1年・機2年)) / 米原 / 前期 水 13・14.....	14

主題別英語

主題別英語 ... (夜間主 ((建・化・生・知)2年; 全3-4年)) / 座喜 / 前期 火 13・14.....	15
---	----

発信型英語

発信型英語 ... (夜間主 (建2年・機3年・全3-4年)) / パトリック / 前期 火 13・14.....	15
発信型英語 ... (夜間主 ((化・電・知)2年; 全3-4年)) / 魚崎 / 前期 火 13・14.....	15

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 依岡 / 前期 水 13・14.....	16
---	----

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 前期 火 13・14.....	16
--	----

情報科学

情報科学入門 ... (夜間主 ((建・機・化・生・電)1~4年)) / 松浦 / 前期 木 11・12.....	17
---	----

4.1 《英語》 (English)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((建・電)1 年))
ギョクンターディルク・非常勤講師
1 単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

- 【授業の目的】** 英語のコミュニケーション能力を高める。
- 【授業の概要】** ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。
- 【キーワード】** 現代英語, コミュニケーション, 外国文化
- 【到達目標】** 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす, 英語を使う自信を高める。
- 【授業の計画】** 1. オリエンテーション 2. "Classroom Talk" 3. 単語ミニテスト "School Life" 4. 単語ミニテスト "Family" 5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1" 6. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2" 7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship" 8. 中間テスト 9. 'Just Talk 1' 10. 'Just Talk 2' 11. 単語ミニテスト "Favorites" 12. 単語ミニテスト "Fashion 1" 13. 単語ミニテスト "Fashion 2" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
- 【成績評価の方法】** (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る事が必要です。(ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。
- 【再試験の有無】** 無
- 【受講者のメッセージ】** 英語は「ただの勉強しなければならない事」ではなく, 言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して, 遠慮せずに身につけた英語を使ったら, その扉を開ける事が出来ます。教室でお会いするのを楽しみにしています。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200294>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ ギョクンター。(オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも))
- 【備考】** 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((化・生・知)1 年))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

- 【授業の目的】** 社会がグローバル化する中, 英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは親しみある歌を通して英語の Listening, reading, speaking 能力の向上を目指します。
- 【授業の概要】** ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し, 歌について書かれたエッセイ文を読んだり, リスニング行い, リーディング力, リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 直前にはリハーサルをする予定です。
- 【到達目標】**
1. 平易な英文が読めるようになる。
 2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
 3. 英米文化への理解を深める。
- 【授業の計画】** 1. Introduction 2. Johnny B. Goode 3. Take Me Home, Country Roads 4. Layla 5. The Boxer 6. House of the Rising Sun 7. Girls On Film 8. All I Wanna Do 9. American Idiot 10. TOEIC TEST REHEARSAL 11. School Of Rock 12. Lose Yourself 13. Desperado 14. Tokyo Joe 15. 期末試験 16. 総括
- 【教科書】** World Popular Songs: From Chuck Berry to Eminem/MICHAEL R. MOSHER: 魚崎典子 (松柏社)
- 【成績評価の方法】** 小テスト, レポート, 学期末試験, 授業への貢献度を総合的に評価する。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者のメッセージ】** 日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は, 授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200262>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ 魚崎。(オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((建・機・電)1 年))
貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

- 【授業の目的】** ボードレス化する世界に適応していくためにも, 英語によるコミュニケーション能力の必要性はますます高まっている。本授業においてはリスニングとリーディングを中心に, 英語の総合的運用能力の向上を図る。
- 【授業の概要】** アジア諸国の文化に触れながら, テキストや CD を用いてリスニングやリーディングの訓練を行う。また, 文法的基礎事項を確認し, 語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に, 単語や慣用語, ディクテーションなどの小テストを実施し, 理解度を確認していく。
- 【キーワード】** リスニング, リーディング, 語彙
- 【到達目標】**
1. 英語によるリスニングやリーディングに慣れる。
 2. 英語によるコミュニケーションが可能になるよう, 語彙を増やしていく。
 3. 異文化に対する自身の考えをまとめていく。
- 【授業の計画】** 1. Class Guidance 2. Chapter1: Korean TV Dramas 3. Chapter2: Indian Traffic 4. Chapter3: Hello Kitty in Singapore 5. Chapter4: Wedding Plans 6. Chapter7: Chinese as a Foreign Language 7. Chapter8: Indonesian Elephant Doctor 8. Mid-term Test (Chapter1-4,7,8) 9. TOEIC Guidance 10. Chapter9: Medical Tourism in the Philippines 11. Chapter11: Mongolian Women 12. Chapter12: Food Culture in Taiwan 13. Chapter13: Thai Amulets 14. Chapter14: Miss Vietnam Loses Out 15. Final Test (Chapter9,11-15) 16. Test Review
- 【教科書】** Diane Hawley Nagatomo 他 『Hello, Asia! アジア文化で学ぶ大学総合英語』 2007 年, 南雲堂, 1,785 円。
- 【成績評価の方法】** 学期中の 2 回の試験, 授業中の小テスト, 出席状況などにより総合的に評価します。
- 【再試験の有無】** 出席率 2/3 以上, 小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。
- 【受講者のメッセージ】** 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので, 欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。また, 2 回行われる試験の実施日に注意してください。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203849>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ 貝沼。

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((化・生・知)1 年・機 2 年))
米原 晶子・非常勤講師
1 単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

- 【授業の目的】** 今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では, 英語の実用的運用能力をはかる客観式テストとして近年広く普及している TOEIC (Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。
- 【授業の概要】** TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題, リーディング問題ともに各自が事前学習をして来ることが前提で, 教室は答え合わせと解説の場とする。またビデオで簡単な日常会話・旅行会話の慣用表現も学習する。
- 【キーワード】** TOEIC, 語彙
- 【到達目標】**
1. TOEIC 問題バタンに慣れる。
 2. TOEIC に出てくる語彙, 特にビジネス系の語句に習熟する。
 3. TOEIC にでてくるビジネス文書に慣れる。
- 【授業の計画】** 1. ガイダンス 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Unit 13 15. 期末試験 16. まとめ
- 【教科書】** 西田晴美他 『Power Charge for the TOEIC Test』 (2009) 金星堂 1950 円
- 【成績評価の方法】** 学期末試験, 予習状況, 中間試験などにより総合的に評価する。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者のメッセージ】** 必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから, リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみてください。TOEIC はとにかく忙しい試験で, 時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやボキャビルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200321>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**

⇒ 米原 . (オフィスアワー: 非常勤講師控室または メールで)

英語 (English)
主題別英語 (夜間主 ((建・化・生・知)2年; 全3・4年))
Thematic English
座喜 純・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 This class designed to provide a good assistance in developing English abilities in general. Especially, It will focus on Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only. There is no specific text book but there will be some other media regarding the 'Theme' which will be selected up to date. Listening and Reading practices will take place during the class hour. As homework, all attendances will be expected to submit an A4 one page report about the 'Theme' within one week after the class. The next class will be a Presentation of some Homework Reports.

【到達目標】 You will gain more skills as much as themes they put into practice.

【授業の計画】 1. Overall Guidance 2. Info Clip 1 3. Presentation of Selected Reports 4. Info Clip 2 5. Presentation of Selected Reports 6. Info Clip 3 7. Presentation of Selected Reports 8. Info Clip 4 9. Presentation of Selected Reports 10. Info Clip 5 11. Presentation of Selected Reports 12. Info Clip 6 13. Presentation of Selected Reports 14. Info Clip 7 15. Presentation of Selected Reports 16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media depending on the 'Theme' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 All Attendance, Homework fulfillment and Participation in class

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200254>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 座喜 .

⇒ E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp

英語 (English)
発信型英語 (夜間主 (建2年・機3年・全3・4年))
Communicative English
パトリックジェフ・非常勤講師
2単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

- 1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
- 2. できるだけ英語を話させる。
- 3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200345>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語(2)

英語 (English)
発信型英語 (夜間主 ((化・電・知)2年; 全3・4年))
Communicative English
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
2単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society, the ability to communicate in English has become increasingly important. The aim of this class is to improve your communicative competence in English.

【授業の概要】 In this class, students will challenge shadowing while improving their listening skill. They also start their own blogs in order to improve their writing skill. Shadowing is a reproduction while listening. In other words, it is to try to repeat what they hear. Shadowing is reported to be an effective method of improving both speaking and listening skills. In the first half of the class, students challenge shadowing. And in the second half, students challenge blog writing and upload what they learn to the learning log system and share the knowledge with their classmate so that cooperative learning will be emphasized

【到達目標】

- 1. Fluency in oral English
- 2. Fluency in writing English

【授業の計画】 1. INTRODUCTION : What is shadowing? 2. INTRODUCTION : Let's start your own blog! 3. Keanu Reeves (1) 4. Keanu Reeves (2) 5. Keanu Reeves (3) 6. D. Radcliffe & E. Watson (1) 7. D. Radcliffe & E. Watson (2) 8. D. Radcliffe & E. Watson (3) 9. D. Radcliffe & E. Watson (4) 10. Denzel Washington (1) 11. Denzel Washington (2) 12. Denzel Washington (3) 13. Kevin Spacey (1) 14. Kevin Spacey (2) 15. term-end exam 16. Summary

【教科書】 No textbook to be used.

【成績評価の方法】 Shadowing, writing, learning logs and some written test will be used for evaluation.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200371>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: To be announced.)

4.2 《ドイツ語》(German)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200735>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 徳島大学総合科学部, 人間社会学科, 人文科学講座, 656-7145,
wolf@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h 総合科学部4号館4階))

【備考】◇ドイツ語, 本気の人歓迎, 一緒に楽しく勉強しましょう。◇
旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語(2)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

(夜間主(全1~4年))

Introductory German

依岡 隆児・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1単位 前期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】初級文法を習得しながら, 簡単なドイツ語を読み, 書き, 聞き, 話すことができるようになること。また, ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること。

【授業の概要】基本的な, 読む, 聞く, 話す, 書くという技能を, 初歩的な文法事項に絞ってドリル形式で練習しながら, 自然とドイツ語が身につくようする。また, 授業の合い間にドイツの映画やビデオを見せ, ドイツの文化や社会への興味を喚起し, 国際人としての教養を身につけられるように配慮する。

【キーワード】外国語, ドイツ語, 異文化理解, 比較文化

【到達目標】初級ドイツ語を使って, 簡単な文書を読み, 旅行に行きつけない程度のコミュニケーション能力を養うことと, ドイツ語圏の文化についての理解を深めること。

【授業の計画】1. 授業ガイダンス 2. アルファベット, 発音, ビデオ鑑賞(板東収容所) 3. 1課, 規則動詞の現在人称変化 4. 同上, ドリル問題 5. 2課, 名詞の性と冠詞, ビデオ(ライン河) 6. 同上, ドリル問題 7. 3課, 語順, 不規則動詞 8. 同上, ドリル練習 9. 4課, 不規則動詞, 前置詞 10. 中間テスト 11. 5課, 副文, 従属接続詞, 人称代名詞, 非人称動詞 12. 同上, ドリル問題 13. 6課, 話法の助動詞, 未来形 14. 7課, 分離動詞, 前期の復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】大岩信太郎『新正書版・身につくドイツ文法』, 同学社

【成績評価の方法】出席と授業への積極的な参加と適宜行うレポートや小テスト, 最後に行う期末試験により, 総合的に行う。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】初めて習う外国語なので, 授業に集中し, 反復・継続を心がけてもらいたい。外国語の習得を通して, 現代の世界へ目を開くようにしてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200719>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡(1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~12時50分)

【備考】ドイツ語を通して新しい世界に触れ, 自分たちの世界を見直すようにしてください。楽しく, そして, 根気よく!

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(夜間主(全2~4年))

Elementary German

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(2)』)

【授業の目的】これまで学んだドイツ語のレベルアップ。外国語を習得するため必要な四つの能力, 話す, 聞く, 読む, 書くをどうに鍛錬し, より的確なドイツ語の表現を身につける。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】ドイツ語会話を通して, ドイツ語圏での文化, 習慣, 考え方, ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文, 章, 言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり, 文法問題を解いたり, 聞き取り練習をしたり, 簡単な作, 文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きが出来るようになること。ドイツ語圏の文化と事情にふれる。

【授業の計画】1. オリエンテーション, 外国語の学び方について, 辞書などの使い方 2. 挨拶, 自己紹介, 職業, 勉強, 専門についての会話 3. 国名, 都市, アルファベット, 発音, ナンバープレートゲーム 4. 数詞, ドイツ語で電話をする 5. 家族, 親類, 目的確 6. 事務所の設備, 仕事, アルバイトについて 7. 趣味, 不規則動詞の現在人称変化 8. 余暇, 週末の過ごし方について, 小テスト 9. 旅に出る, ホテルで 10. 駅, 空港で, 時刻表の読み方 11. レストランでの大事な表現 12. 食事, 飲み物の話, ドイツ, オーストリーの喫茶店 13. 外出, 約束すると関係ある表現 14. ドイツ, オーストリー料理について 15. 定期試験 16. 纏めと質疑応答

【教科書】プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 宿題, 出席, 授業への取り組み状況をもとにして総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

4.3 《情報科学》 (Information Science)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (夜間主 (建・機・化・生・電)1~4年)

Introduction to Information Science

松浦 健二・准教授/高度情報化基盤センター

2単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 今やコンピュータの利用なくして、学習も研究も、あるいは卒業社会で活躍するにも成立しない時代となっている。コンピュータが身近になったとは言え、その適切な使い方や、それを生かす考え方、あるいは学び方について学ぶ事は今後の人生にとって欠かせない。本授業では、その基本的な考え方やスキルの習得を目指し開講する。

【授業の概要】 1. コンピュータを扱う上での情報セキュリティの概念と知識を習得する。2. 社会に参画する上での、情報倫理を考える。3. コンピュータによる情報リテラシーを身につける。4. 情報の整理と表現方法を習得する。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会

【到達目標】 現代社会において必須ツールであるネットワークとコンピュータを用いて学び方、情報整理、情報表現のスキルを身につける

【授業の計画】 1. ガイダンス、教室、施設、パソコン周辺機器の利用法 2. 情報セキュリティと情報管理 3. 情報社会と情報倫理 4. ネットワークと電子メール 5. オンラインコンテンツを用いた学び 6. 文書の作成技法 7. 表計算とグラフ表現 8. 表計算とデータ処理 9. データベースソフトの基礎 (データベース・テーブル作成) 10. データベースソフト (SQL 概念) 11. データベースソフト (SQL 演習) 12. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 基礎) 13. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 演習) 14. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション設計) 15. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション演習) 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門-ソフト操作編-」 学術図書出版社 1700 円

【参考書等】 内容が多岐に渡るため、関連図書等は随時示す

【成績評価の方法】 毎週のレポート提出状況と授業への取り組みから総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 ワードプロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の基本的な操作知識やスキルは既知のものと仮定します。コンピュータの初心者には、事前にこれらを習得しておくことが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200553>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 松浦 (院生棟 505, matsuura@ait.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月9:00-10:00, 高度情報化基盤センター505室)

5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

線形代数学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 桑原 / 前期 火 13・14.....	20
微分積分学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 長町 / 前期 水 11・12.....	20

基礎物理学

基礎物理学 f・力学 ... (夜間主 (全 1 年)) / 川崎 / 前期 木 13・14.....	21
---	----

5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

(夜間主 (全 1 年))

Linear Algebra 1

桑原 類史・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には線形代数学の理解は欠かすことができない。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目指す。

【キーワード】 行列, 連立 1 次方程式, 行列式

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】 行列, 行列式に関する基本的な計算方法を習得し, 連立 1 次方程式の解法に応用できる。

【授業の計画】 1. 導入 (授業計画の説明など) 2. 行列 3. 行列の演算 4. 正則行列, 逆行列 5. 色々な行列 6. 行列式 7. 行列式の性質 8. 行列式の展開公式 9. 行列式的应用 10. 行列の基本変形 (1) 11. 行列の基本変形 (2), 逆行列の求め方 12. 連立 1 次方程式とその解法 (1) 13. 連立 1 次方程式とその解法 (2) 14. 幾何ベクトルと数ベクトル 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート, 授業への取り組み状況 (10~30%) などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし, 期末試験の成績が 30 点未満のものは, 再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】 講義中は集中して講義内容の理解に努め, 自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200433>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

(夜間主 (全 1 年))

Calculus 1

長町 重昭・教授/工学部
2 単位 前期 水 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握すること、を要求するようになってきている。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1 変数関数の微分学の、基礎事項の理解を深め、さらに、2 変数関数の微分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】 微分積分学の基礎になっている極限の概念からはじめて、基本的な初等関数の導関数やテイラー展開について講義する。さらに 2 変数関数については、偏微分と全微分及び偏微分法の基本的な公式とその応用を講義する。

【到達目標】

1. 極限の厳密な取り扱いが理解できる。
2. 簡単な 1 変数関数に対してテイラー展開ができる。
3. 簡単な 2 変数関数に対して偏微分ができる。
4. 偏微分法の基本的な公式が使える。

【授業の計画】 1. 数列の極限 2. 関数の極限 3. 連続関数の性質 4. 微分法の基本公式 5. 基本的な初等関数の導関数 6. 平均値の定理 7. テイラーの定理 8. 平面の位相と 2 変数関数 9. 2 変数の連続関数 10. 偏微分係数 11. 全微分 12. 偏微分法の基本公式 13. 2 変数関数のテイラー展開 14. 偏微分法的应用 15. 前期テスト 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書: 大原一孝著 『実例で学ぶ微分積分』 学術図書出版
- ◇ 参考書: 伊東由文著 『解析学 (上)』 サイエンスハウス

【成績評価の方法】 テストを実施する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特になし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200413>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 長町 (A 棟 205, 088-656-7554, shigeaki@pm.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 特になし)

5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学
Mechanics

(夜間主 (全 1 年))

川崎 祐 講師/工学部

2 単位 前期 木 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得するとともに、応用能力を身に付けることを目的とする。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】 質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。

【キーワード】 ニュートンの運動法則、力学的エネルギー、運動量、角運動量

【到達目標】

1. 力という抽象的概念及びニュートンの運動方程式を理解する
2. 仕事、運動エネルギー、保存力とポテンシャルエネルギーの関係、及び力学的エネルギーの保存則について理解する
3. 運動量とその保存則、また回転運動を角運動量、トルクという物理量で捉える方法について理解する

【授業の計画】 1. 物理学と測定 2. ベクトル 3. 1次元の運動 4. 2次元の運動 5. 運動の法則 6. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 1 7. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 2 8. 仕事とエネルギー 9. ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存則 10. 運動量と衝突 11. 固定軸周りの剛体の回転 12. 転がり運動、角運動量およびトルク 13. 演習 14. 演習 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 R.A. サウウェイ 科学者と技術者のための物理学 Ia 力学・波動 (学術図書)

【成績評価の方法】 期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 公式を暗記するのではなく、力やエネルギーという抽象的概念を理解することが肝心である。教科書には独習できるように、丁寧に書かれた本を選定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200456>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 川崎 (A 棟 217, 088-656-9878, yu@pm.tokushima-u.ac.jp)

6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

自然と技術

(工) 機械工学概論 ... (夜間主 (機)) / 機械工学科教員 / 前期 月 13・14.....	24
(工) 化学応用工学概論 ... (夜間主 (化)) / 河村・右手・平野・西内 / 前期 月 13・14.....	24
(工) 電気電子工学概論 ... (夜間主 (電)) / 電気電子工学科教員 / 前期 月 13・14.....	24

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 機械工学概論

Outline of Mechanical Engineering

(夜間主 (機))

機械工学科教員

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】 この講義では、機械工学のもつ総合的な特性を通して、理系および文系の学生に現代社会における機械工学が果たす役割について理解してもらう。

【授業の概要】 機械工学の役割はエネルギー機器から精密・情報機器、半導体生産設備、食品加工機などの企画、開発、設計、生産と非常に幅広く、機械工学は多くの技術、工学を融合したものである。この機械工学の発展の歴史、現在の課題、未来への展望などを各教官の専門分野の話題を通して講義する。

【キーワード】 機械科学、機械システム、知能機械、生産システム

【到達目標】 機械工学を通して、機械工学の現代社会における役割を理解し、総合的な判断能力を養うことを目標とする。

【授業の計画】 1. 機械を構成する部材に生じる変形と力の係わり 2. 材料の微視構造と新材料の開発動向 3. 機械の破壊の仕組みと防止方法 4. 流体エネルギーの利用について 5. 流れの中の物体に働く揚力と抗力 6. 熱エネルギーの利用について 7. 機械振動の制御 8. 自動制御の歴史 9. ロボット工学の将来 10. 加工と生産システムの歴史 11. 材料の微細組織と機械的性質 12. 計測とデータ処理 13. 超精密機械としての分光器の原理と性能および応用分野 14. エンジンにおける代替燃料の利用 15. レポート指導と総括

【教科書】

◇ 教科書:使わない

◇ 参考書:各週の講義では OHP 等で具体的な説明があり、テーマごとにプリント等が参考資料として配布される。参考書は、講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法】 各テーマの講義について、毎回、レポートの提出が義務付けられる。このレポートの提出と講義への取組みを総合して評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 機械工学に関心をもつ者への導入教育科目の一つとして位置づけているので、機械工学科の学生は必ず受講するように希望する。レポートの様式・内容・提出のきまり(場所・期日)は、各回の講義時間に連絡される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200514>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日野 (M422, 088-656-7384, hino@me.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 17:00~18:00)
⇒ 日野(M422, 088-656-7384, hino@me.tokushima-u.ac.jp)

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 化学応用工学概論

Outline of Chemical Science and Technology

(夜間主 (化))

河村 保彦・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

右手 浩一・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

平野 朋広・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 西内 優騎・講師/工学部

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】 現代の理工学関係の科学者や技術者には、多種多様な物質の化学的基礎知識が要求される。本講義では、物質の性質を化学結合、分子構造に基づいて理解させると共に、実社会における化学の応用例にもふれる。高等学校の履修内容との橋渡し、上級学年における学修の基礎形成と動機付けを目的とする。

【授業の概要】 高等学校で学んだ化学に接続させ、化学の基礎としてまず電子のエネルギー状態がどのように記述されるか解説し、次に原子、分子の構成について述べ、物質の性質を化学結合、分子構造と関連させて理解させる。さらに、炭素原子の混成軌道の概念から有機および高分子化合物の構造と反応性を解説する。これらの基礎の上に、私たちが生きていく上で欠かさない有用な化学的事象や”もの”について解説する。

【キーワード】 化学結合、分子構造、混成軌道、有機化学、高分子化学

【到達目標】 高分子を含む有機化合物を対象に、物質を構成している原子、分子の化学結合が反応性、物理化学的性質にいかに関係しているか、また、社会においてどのように利用されているかを理解させる。

【授業の計画】 1. 1. 有機化学の基礎 1 2. 2. 有機化学の基礎 2 3. 3. 有機化学の基礎 3 4. 4. 有機化学の基礎 4 5. 5. 高分子化学の基礎 1 6. 6. 高分子化学の基礎 2 7. 7. 高分子化学の基礎 3 8. 8. 高分子化学の基礎 4 9. 9. 高分子合成化学の基礎 1: 10. 10. 高分子合成化学の基礎 2: 11. 11. 高分子合成化学の基礎 3: 12. 12. 有機化学による生産の科学 1 13. 13. 有機化学による生産の科学 2 14. 14. 有機化学による生産の科学 3 15. 15. 期末試験 16. 試験結果の講評と総括

【教科書】 マクマリー有機化学(上)伊東・他訳(東京化学同人)

【参考書等】 有機化学のしくみ 齋藤勝裕著(ナツメ社)

【成績評価の方法】 小テストまたは課題レポートおよび期末試験により評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203179>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河村 (化 410, 088-656-7401, kawamura@chem.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 右手 (化学棟 406, 088-656-7402, ute@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 15:00 ~ 17:00)
⇒ 平野 (化 405, hirano@chem.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 西内 (化 409, 088-656-7400, nishiuch@chem.tokushima-u.ac.jp)

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 電気電子工学概論

Outline of Electrical Engineering and Electronics

(夜間主 (電))

電気電子工学科教員

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】 電気電子工学の初学者に特別な専門知識を必要とせず、身の回りの電気電子工学やホットな研究活動の概要を出来るだけ平易に紹介することにより、初学者に電気電子工学に興味と勉学の意欲を喚起させる。工学部電気電子工学科の受講生においては、さらにキャリアデザインのための情報を得て、これからの学習計画を考える。

【授業の概要】 電気電子工学科の全教授が、関係する分野を中心とした身の回りの電気電子工学や電気電子工学のホットな研究活動を平易に紹介し、毎講義の最後にレポート課題を与える。

【キーワード】 電気電子工学、物性デバイス、電気エネルギー、電気電子システム、知能電子回路

【到達目標】 電気電子工学に関わる基礎的な知識の修得と電気電子工学を学ぼうとする学生の勉学意欲を沸かせる。

【授業の計画】 1. 1. ~ 4. :物性デバイス分野の紹介:気体、液体、固体中での電子や分子の物理現象と半導体を中心とする電子デバイスの設計方法に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 2. 5. ~ 8. :電気エネルギー分野の紹介:電気エネルギーの発生や輸送、動力機器とその制御等を含む電気エネルギーの変換および利用法等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 3. 9. ~ 11. :電気電子システム分野の紹介:計算機援用による設計、制御について考察する制御システム分野および各種情報の取り扱いと伝送技術等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 4. 12. ~ 14. :知能電子回路分野の紹介:電子回路の設計や解析およびコンピュータ回路の知能化を実現するハードウェアとソフトウェアに関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 5. 15. :電気電子工学概論全体に対するレポート

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントが配布される。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 毎回の授業に対する課題レポートと電気電子工学概論全体に対するレポートの内容をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 電気電子工学科 1 年生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203180>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 電気電子工学科教員
⇒ 下村 (E 棟 2 階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00 ※掲示板で確認されたい。)

第2章

後期

後期

1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

現代世界の展開 ... (夜間主)/佐久間/後期 月 13・14.....	28
デスクトップミュージック入門 ... (夜間主)/宮澤/後期 月 13・14.....	28
日本古代文学 II ... (夜間主)/堤/後期 木 11・12.....	28
東アジア考古学概論 II ... (夜間主)/東/後期 木 11・12.....	29

生活と社会

科学技術と社会 ... (夜間主)/樋口/後期 月 13・14.....	30
マクロ経済学入門 ... (夜間主)/趙/後期 月 13・14.....	30

自然と技術

天然物化学入門 ... (夜間主)/中村/後期 木 11・12.....	31
身の回りの地球科学 ... (夜間主)/村田/後期 木 11・12.....	31

1.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

現代世界の展開

Modern World History

佐久間 亮・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 ポードレス化がますます進行する社会の中でよりよく生きていくためには、様々な文化や宗教を背景にした人々との相互理解は不可欠である。したがって、現代の世界で何が起きているのか、さらにはそれらの歴史的背景についての知識は現代人の必須の教養である。しかしながら、高校での世界史では、現代史、とりわけ第二次世界大戦後の歴史については充分には教えられず、その知識の欠落は著しい。たとえば、アメリカの中東政策に対して、なぜあれほどまでにアラブ系の人々が反発しているのか、少なくとも第二次大戦直後にまで遡って中東の歴史を考えなければ、理解不能だろう。この講義では、第二次世界大戦後の世界の歴史を、おもに映像とパワーポイントによる画像を用いながら理解してもらうことを目的とする。この知識のギャップを埋める作業は、「常識」に関するジェネレーション・ギャップを埋めることもねらいとしている。

【授業の概要】 第二次世界大戦後の歴史を、3 つの局面に分割して理解する見方を紹介する。第一の局面は、「冷戦」の時代である。戦後ながく続いたこの枠組みがいかなるものだったかを具体的な事件とおして理解することがまず第一の課題である。その上で、この枠組みが崩壊して以降の「民族主義」と「神々」の復活という第二の局面に世界が直面してきたこと、そして、「9-11」後、世界がどのような方向に進みつつあるのかについて、歴史家としての展望を示したいと思う。

【キーワード】 冷戦, イデオロギー, 民族主義, イスラーム, 歴史観

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤』(0.5)

到達目標

1. 新聞、テレビニュースで語られる世界の出来事を的確に理解できるようになること
2. 今を理解する上で歴史的パースペクティブをもつことが不可欠であることを実感すること

【授業の計画】 1. 米ソ冷戦の始まり 2. 分割されたドイツの悲劇 3. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (1)-日本の台湾支配- 4. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (2)-第二次大戦後の推移- 5. アジアの「熱い戦争」 6. キューバ危機と核開発競争 7. アジアの泥沼 (1) -ベトナム- 8. アジアの泥沼 (2) -アフガニスタン- 9. ホメイニ革命から湾岸戦争まで 10. ユーゴスラビア紛争 (1)-東欧革命の余波- 11. ユーゴスラビア紛争 (2)-「民族浄化」- 12. 9. 11 の衝撃 13. パレスチナ紛争とは何か (1)-歴史的起源- 14. パレスチナ紛争とは何か (2)-和解への遠い道のり- 15. 期末試験 16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】 参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度、小テスト、学期末テスト (論述形式) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験はおこなわない。

【受講へのメッセージ】 日々のニュースに関心をもちつつ受講してほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203216>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

歴史と文化 (History and Culture)

デスクトップミュージック入門

Prime guide of desktop music

宮澤 一人・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 コンピュータによる音楽制作についての基礎的な知識を学び、同時に音楽の構造や具体的な表現方法についても考察する。意外に思われるかもしれないが、実は音楽を作るためには、いわゆる「文科系思考」と同時に「理系の思考」も不可欠である。音楽を理性的に捕らえそこで表現されていることを、数字やデータとして把握できるようにすることは、どのような専門分野に進んでも必要な能力を養うことに直結する。

【授業の概要】 音楽を構成している様々な楽器について学び、それらの演奏データをいかにしてパソコン上のアプリケーションに入力するかについて考察する。続いて、パソコンで音楽を演奏する時に用いる MIDI 信号について、その詳細を学ぶ。

【キーワード】 パソコンと音楽, MIDI システム, デジタルによる音響処理

【到達目標】 音楽を客観的に分析し、的確なデータとして捕らえ、それを自分自身の文章等で他人に伝えることができるようにする。

【授業の計画】 1. コンピュータと音楽の良い関係とは 2. ドラムスの構造 3. ドラムスの入力 4. ベースとリズムセクション 5. ベースとリズムセクションの入力 6. スtrings とホーンセクション 7. Strings とホーンセクションの入力 8. アナログ・シンセサイザー 9. デジタル・シンセサイザーとジェネラル MIDI(GM) 規格 10. MIDI 信号 (概要, ノートオンとノートオフ) 11. MIDI 信号 (音色の選択方法) 12. MIDI 信号 (様々なコントロール) 13. MIDI 信号 (システムメッセージ) 14. コンピュータと音楽の最前線 15. レポート提出 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。授業内容についての資料をその都度配布する。

【参考書等】 デスクトップミュージックに関する様々な書籍が出版されているので、各自適切なものを探すこと

【成績評価の方法】 授業中に指示するレポートの内容、授業への取り組み状況により決定する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 まず様々なジャンルの音楽に興味と好奇心を持っていること。楽器の演奏経験は問わない。教室の都合により、定員を 50 人に制限する。なお、教室が共通教育棟から離れているので、事前に確認しておく方が良い。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203217>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

(オフィスアワー: 木曜日昼休み, または授業直前(研究室に在室中は特別な場合を除き対応可能))

【備考】 後期, 月曜日, 13-14 講時

歴史と文化 (History and Culture)

日本古代文学 II

Ancient Japanese Literature 2

堤 和博・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学を読むとすると、言葉が現代語と違うのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の主要な作品群である平安時代の和歌を取り上げ、古典文学作品読解の基本を身につけることを目的とする。以上のことに加え、文章力を養うことも目的とする。

【授業の概要】 文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る (古典で言えば単に現代語訳する) だけではすまされないのは勿論である。作品の成立した過程やその時代の状況、あるいは登場人物の人物像などを考慮に入れながら、作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない。つまり、和歌に限らず文学作品はそれが生み出された時代の文化や政治などと不可分なのである。平安時代について言うと、平安時代初期、日本は中国文化の影響を強く受け、その後政治体制の変化などに伴って国風文化といわれるものが花開く。また、その政治史的には摂関制、院政、武家政権と移っていく。そんな時代背景のもと、平安時代の和歌史がどう展開していったかを跡づけることを目的とするが、政治史との関わりに特に重点をおく。平安時代には『古今集』をはじめとして勅撰和歌集がいくつか編まれた。授業は勅撰和歌集が編まれた頃を焦点に時代区分して進めていく。

【キーワード】 勅撰和歌集, 日本古典文学, 日本古代史

到達目標

1. 平安時代のそれぞれの和歌が詠まれた頃の時代や作者の状況を把握した上でその和歌を読解する過程及び結果が理解できる。
2. 1 で理解した内容をわかりやすく文章化できる。

【授業の計画】 1. 全体的な説明 2. 『古今和歌集』成立迄 その 1-詠み人知らずの歌- 3. 『古今和歌集』成立迄 その 2-六歌仙の歌- 4. 『古今和歌集』時代 その 1-紀貫之等の歌- 5. 『古今和歌集』時代 その 2-伊勢等の歌- 6. 『古今和歌集』時代 その 3-その他有力歌人の歌- 7. 『後撰和歌集』時代 その 1-撰関家の歌- 8. 『後撰和歌集』時代 その 2-専門歌人等の歌- 9. 『後撰和歌集』時代 その 3-歌物語的な歌- 10. 『拾遺和歌集』時代 その 1-藤原公任等の歌- 11. 『拾遺和歌集』時代 その 2-花山院等の歌- 12. 『拾遺和歌集』時代 その 3-和泉式部等の歌- 13. 勅撰和歌集空白の時代 その 1-能因等の歌- 14. 勅撰和歌集空白の時代 その 2-相模等の歌- 15. レポート作成, または, テスト 16. 総括授業

【教科書】 無し

【参考書等】 授業中に適宜配布, 提示する。

【成績評価の方法】 数度の小レポートと期末試験(記述式)の合計点に欠席状況(注)を加味する。注・授業には出席するのが当然なので、出席しても加点しないが、欠席すると減点する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特に歴史に関する事柄は欠かさず聴講しないと理解しにくいので、やむを得ず欠席した場合は、個別に質問に来ること。なお、数度以上無断で欠席した者は、受講の意志を無くしたものとみなす。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203218>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

歴史と文化 (History and Culture)

東アジア考古学概論 II

(夜間主)

Outline of East Asian Archaeology 2

東潮・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 人間は猿からの進化の過程で、道具を生みだしてきた。石器時代から青銅器時代をへて、鉄器時代にはいった。そして狩猟具から殺傷武器という道具も生みだした。古代のさかのぼって、諸技術とその発展、人間とのかかわりを追究する。

【授業の概要】 古代東アジアにおける諸技術について概観する。古代における生産の基盤は鉄と農業生産にあった。これらの生産技術を中心として、最新の発掘調査の成果などをふまえて講義する。

【キーワード】 技術, 鉄

【関連科目】 『歴史と文化/考古学概論 II』(0.5)

【到達目標】 自らの専門分野と古代の技術とのかかわりなどについて、ともに考えていく。

【授業の計画】 1. 技術と人間 2. 人類の出現と道具-ネアンデル人の復元 3. 石器の生産-石器時代の東アジア 4. 青銅器生産-青銅器時代の東アジア 5. 鉄器生産-東アジア古代の鉄生産と技術移転 6. 中国古代の製鉄 7. 朝鮮古代の製鉄 8. 日本古代の製鉄 9. 日本近世・近代のタタラ 10. 金工・ガラス工芸 11. 農業技術-石製農具から鉄製農具 12. 巨大建造物・墳墓の土木・建築技術 13. 寺院・都城の土木・建築技術 14. 天文学と諸技術-高松塚・キトラ古墳壁画の天文図と飛鳥時代 15. 試験 16. 技術と人間, 戦争を考える

【教科書】 なし

【参考書等】 小林行雄『古代の技術』塙書房, 潮見浩『図解技術の考古学』, 東潮『古代東アジアの鉄と倭』溪水社

【成績評価の方法】 学期末試験による。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200854>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部1号館3階考古学研究室で随時おこなう。)

1.2 《生活と社会》 (Living and Society)

生活と社会 (Living and Society)

科学技術と社会

Science and Society

(夜間主)

樋口 直人・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 科学技術が、社会の価値から中立であるという見方が幻想にすぎないことは、もうずいぶん前から議論されてきた。それでは、どのように社会と科学技術は関わるのか、どのような関係が望ましいのか、あるいは、どのような対立点があるのか。こうした点は、科学技術をこれから学ぶ人だけでなく、現代社会に生きる人間が自分のサバイバルのためにも学ばなければならないことであり、そうした視点を持つことが目的となる。

【授業の概要】 いくつかのテーマに分けて、科学技術と社会との関わりを見ていく。機械工学や生産工学から始まり、遺伝子工学や情報工学にも関わる形で議論していきたい。また、知識の習得を目的とするのではなく、自ら考える訓練の場とするために、毎回特定の課題について小論を書いてもらう。小テストも、価値が対立する点での自らの立場や考え方を明確にするためのものであり、考えることを授業では要求する。

【到達目標】 科学技術と社会の関係やその間の潜在的な対立点について理解してもらう。そのうえで、現代の科学技術の先端部分を見直してほしい。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 大量生産と大量消費 3. (1) フォード主義と大量生産 4. (2) 映画『モダンタイムズ』鑑賞 5. (3) 私たちはなぜ次々にモノを買ってしまうのか?: 大量消費のメカニズム 6. 情報技術と社会 7. (1) モノの生産からロゴの生産へ: ナイキは何を作っているのか? 8. (2) 情報社会とグローバル化 9. (3) ケータイは身体をどう変えるのか?: 通信技術の社会学 10. 生殖技術と身体 11. (1) 人は神の領域に介入しているのか?: 中絶をめぐる身体観の闘争 12. (2) 遺伝子技術と管理社会 13. (3) 映画『ガタカ』鑑賞 14. リスク社会と技術 15. (2) リスク社会の誕生 16. (2) 食をめぐるリスク 17. (3) リスクの何が問題なのか?

【教科書】

- ◇ 教科書は使わない。
- ◇ レポートの課題図書 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書

【成績評価の方法】 授業中の小テスト、中間のレポート 1 回、期末の大レポート 1 回を組み合わせる。評価方法については、複数のなかから受講生に有利なものを採用するが、詳しくは初回に資料を配付して説明するので必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 理科系の人でも、今後は社会との関わりによって科学技術を捉えるセンスが求められる。知識の習得は求めていないので、そうしたセンスを磨くよう心がけてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203204>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

生活と社会 (Living and Society)

マクロ経済学入門

Introduction to Macroeconomics

(夜間主)

趙 形・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】 マクロ経済学の重要な概念を理解し、日経新聞の経済記事が読めるようになることが本授業のねらいである。

【授業の概要】 はじめはマクロ経済学の概念の説明につとめる。身近な世界経済問題から出発し、金融の仕組み、経済の仕組み、そしてマクロ経済学の基本を学習する。

【キーワード】 為替相場、金利、金融・財政政策、グローバル化世界経済

【到達目標】

1. 日経新聞の記事が読めること
2. 経済理論をもって経済現象を考えること

【授業の計画】 1. これまでの円の動きについて 2. ヘッジファンドと「ボンド危機」について 3. 「アジア通貨危機」について 4. 「ロシア通貨危機」について 5. これからの「世界の通貨体制」

【教科書】 講義中指示する

【参考書等】

- ◇ 細野真宏『経済のニュースがよく分かる本 (世界経済編)』小学館
- ◇ 大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・経済政策論)』、『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・マーケット論)』中経出版

【成績評価の方法】 出席と期末試験あるいはレポート

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 受講生に 2 回ほどディスカッションしてもらうので、受講人数を 40 名とする

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200594>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00~14:30)

1.3 《自然と技術》 (Science and Technology)

自然と技術 (Science and Technology)

天然物化学入門

(夜間主)

Introduction to Natural Product Chemistry

中村 光裕・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『化学』)

【授業の目的】地球上で生活する植物、動物、微生物など数多くの生物が体内で独自の化合物を合成し、その化合物によって、身を守ったり、攻撃したり、会話したりしている。人でもホルモンを始めとする化合物によって体内の機能をコントロールしている。我々は、これらの化合物の機能を利用し、様々な分野で有効利用している。本講義では、天然物化学の研究法を紹介し、天然物化学によって明らかにされた化合物の機能について解説する。

【授業の概要】天然物資源から作り出される化合物について、天然物化学の観点から解説し、これらの成分の機能について、できるだけわかりやすく紹介する。

【キーワード】天然物化学、天然物資源

【到達目標】様々な天然物資源の有効利用法を理解する。

【授業の計画】1. はじめに 2. 天然物化学の研究法 (1) 3. 天然物化学の研究法 (2) 4. 生物間相互作用物質 (1) 5. 生物間相互作用物質 (2) 6. 生物間相互作用物質 (3) 7. 天然毒 (1) 8. 天然毒 (2) 9. 天然物由来の薬 (1) 10. 天然物由来の薬 (2) 11. 天然物由来の食品 (1) 12. 天然物由来の食品 (2) 13. 天然物由来の材料 (1) 14. 天然物由来の材料 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】授業に必要な資料を随時配布する。

【参考書等】授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法】学期末テスト、レポート、受講態度

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】化学また生物学を十分に学ばなかった学生にも理解できるように講述する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203174>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村

【備考】上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

自然と技術 (Science and Technology)

身の回りの地球科学

(夜間主)

Geology and Environment

村田 明広・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『地球』)

【授業の目的】地球科学の分野のいくつかのトピックスを学ぶことによって、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象を理解することを目的とする。また、地震などの地質学のかかわる自然災害について理解を深め、防災意識を高めたり、地球環境問題について理解を深めることを目的とする。高校で地学を学んでいない学生にも地学に興味を持ってもらえるようにすることも目的とします。

【授業の概要】地球科学の分野で、最近、話題になっているテーマを選び、それぞれ 1~2 回完結の講義を行う。生物の進化、恐竜の絶滅、南海地震、アスベスト問題、鉄と石炭など、地球と生物との関わりや、地球環境と資源に関するテーマを主とする。

【キーワード】ダイヤモンド、恐竜、進化、氷河時代、地震、地球環境

【関連科目】『自然と技術/地球と地層の科学』(1.0)

【到達目標】地球で起こっている地学現象の基礎的な事項を理解することができる。

【授業の計画】1. ダイヤモンドはどういうところで生成するか。 2. 中生代白亜紀末の恐竜の絶滅と巨大隕石の衝突。 3. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (1) 4. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (2) 5. 惑星・衛星の地質学 (火星の火山・地層・流水跡、金星の火山・山脈)。 6. 先カンブリア時代の縞状鉄鉱層と地球環境。 7. 氷河時代。地球に氷期・間氷期が訪れるのはなぜか。 8. 石炭と環境。 9. イギリスの景勝地と地質学 (ネス湖、ピート、湖水地方、チョークの崖)。 10. 南海地震の再来。 11. 阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震と野島断層。 12. 徳島県下の中央構造線活断層系の発生確率。 13. アスベストと環境問題。 14. 徳島県と世界の景勝地 (鳴門の渦潮、大歩危峡、阿波の土柱、エアズロック) 15. 定期試験。 16. 総括授業。

【教科書】「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入してください。

【成績評価の方法】毎回実施する小テスト (50%) と期末試験 (50%) を総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】高校で地学を学んでいなくてもかまいません。液晶プロジェクターを使って授業を行う。「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入し、毎回必ず持参すること。携帯電話は音が鳴らないように設定して鞆の中にし、授業中には絶対出さないこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=203181>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室中ならいつでもかまいません。)

2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

共創型学習

宇宙を探る ...(夜間主)/伏見/後期 月 13・14..... 34

2.1 《共創型学習》 (Creativity Development)

共創型学習 (Creativity Development)

宇宙を探る (夜間主)

Introduction to Astronomical Observation

伏見 賢一 准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 宇宙の観測を体験して、現代の科学技術との関連を実感する。宇宙を観測する方法は対象によってさまざまである。はじめにいろいろな天体とその観測方法について紹介する。その後いくつかの観測方法によって宇宙の探求を実践する。

【授業の概要】 1. 天体とは、宇宙の広がりについて 2. 宇宙観測の方法 3. 宇宙観測の実践 (下記のどれかを実践する) 3-1. 天体望遠鏡による観測 (写真・CCD 観測など) 3-2. 望遠鏡を使わない観測 (写真・ビデオ観測など) 3-3. 電波などによる観測

【キーワード】 宇宙論, 天体観測, 写真撮影・画像処理

【関連科目】 『自然と技術/宇宙物理学入門』(0.5)

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 天体の階層 (講義) 3. 参考文献購読 4. 参考文献購読・解説 5. いろいろな天体観測の方法 (歴史) 6. いろいろな天体観測の方法 (最新技術の紹介) 7. 天体観測 I 8. 天体観測 II 9. 解説・中間報告 10. 天体観測 III 11. 天体観測 VI 12. 解説・中間報告 13. 天体観測 V 14. 天体観測 VI 15. 解説・報告会 16. 発表会

【参考書等】 天文ガイド (伏見教員室に常備しているものを適宜貸与することができる)

【成績評価の方法】 授業及び観測の実施状況に応じて評価する。中間報告のレポート及び発表会の発表で評価する。

【受講者へのメッセージ】 天体観測は屋外で夜間に実施します。冬季なので非常に寒くなることが予想されますので、温かい服装を用意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200491>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

主題別英語

主題別英語 ... (夜間主 (建・機・電)1年)) / 魚崎 / 後期 火 11・12.....	36
主題別英語 ... (夜間主 (建・機・電)1年; (建・機)2年; 全3・4年)) / 米原 / 後期 水 13・14.....	36
主題別英語 ... (夜間主 ((化・生・知)1年)) / ギュンター / 後期 火 11・12.....	36
主題別英語 ... (夜間主 ((化・生・知)1年; (化・生・知)2年; 全3・4年)) / 貝沼 / 後期 水 13・14.....	36

発信型英語

発信型英語 ... (夜間主 (全2~4年)) / パトリック / 後期 火 13・14.....	37
---	----

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 依岡 / 後期 水 13・14.....	38
---	----

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 後期 火 13・14.....	38
--	----

3.1 《英語》 (English)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(夜間主 ((建・機・電)1年))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

【授業の概要】 映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】 1. INTRODUCTION 2. Aunt Marge 3. LEAKY CAULDRON 4. Welcome to Another Year at Hogwarts 5. Boggart & Hogsmeads Days 6. You Could Teach Me 7. The Marauder's Map 8. Shrieking Shack 9. Time-Turner 10. Quidditch World Cup 11. The Triwizard Tournament 12. The Champion Selection 13. Horntail 14. Harry Vs. Horntail 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200255>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします.)

英語 (English)

主題別英語 (夜間主 ((建・機・電)1年;(建・機)2年;全3・4年))
Thematic English 米原 晶子・非常勤講師
1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、実際に使われる英語表現の習得を目的とする。

【授業の概要】 DVD を視聴しながら、テキストに沿って聞き取り、単語の確認、内容理解、背景の説明を行う。

【キーワード】 映画、リスニング、慣用表現

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 様々な場面での英語の慣用表現に習熟する。
3. 社会的、文化的背景についての理解を深める。

【授業の計画】 1. 授業の説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Discussion 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 梶本浩美他『American Justice in Focus』(2007) マクミランランゲージハウス 2100 円

【成績評価の方法】 学期末試験、予習状況、レポートまたは中間試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 . 普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいて下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200231>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 . (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(夜間主 ((化・生・知)1年))
ギンターティルク・非常勤講師
1 単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語、コミュニケーション、外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Getting To Know You" 3. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 1" 4. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 2" 5. 単語ミニテスト "Seeking A Job 1" 6. 単語ミニテスト "Seeking A Job 2" 7. 単語ミニテスト "Describing Situations 1" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Describing Situations 2" 12. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 13. 単語ミニテスト "Living Abroad" 14. 単語ミニテスト "Writing A Story" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション、(カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る事が必要です。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 英語は“ただの勉強しなければならない事”ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお楽しみしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200202>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギンター . (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語 (夜間主 ((化・生・知)1年;(化・生・知)2年;全3・4年))
Thematic English

貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会のグローバル化の進展に伴い、多様な文化を理解することの必要性は高まる一方である。そこで本授業においては世界遺産を取り扱うテキストを用い、ビデオ教材などを通じて英語によるコミュニケーションに不可欠なリスニング力の向上を図る。

【授業の概要】 世界遺産に指定された諸地域に対する認識を深めつつ、テキストやビデオ教材などを中心にリスニングの訓練を行う。また、文法の基礎事項を確認し、語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に、単語や慣用句、ディクテーションなどの小テストを実施し、理解度を確認していく。

【キーワード】 リスニング、語彙

【到達目標】 日常的に利用可能な英語表現、語彙などを習得し、実際に英会話を行う際に必要なリスニングの力を含む、総合的な英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Chapter1: Edinburgh: World-famous Festivals (U.K.) 3. Chapter2: The Darjeeling Himalayan Railway (India) 4. Chapter3: Nasca: Pictures in Peru (Peru) 5. Chapter4: The Kremlin (Russia) 6. Chapter6: The Pyramids (Egypt) 7. Chapter7: Angkor Wat: Jungle Ruins (Cambodia) 8. Mid-term Test (Chapter1-4,6,7) 9. Chapter10: Shurijo: Okinawa's Red Castle (Japan) 10. Chapter11: The Great Wall of China (China) 11. Chapter12: Yosemite: A Major National Park (U.S.) 12. Chapter13: Uluru: (U.K.) 13. Chapter1: Edinburgh: World-famous Festivals (U.K.) 14. Chapter1: Edinburgh: World-famous Festivals (U.K.) 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Review

【教科書】 Our World Heritage Takemae Fumio/William F.O'Connor/Okada Reiko/Fukunaga Yasuyo/Nakao Masashi. Mayumi Hamada/Hiromi Akimoto. Roman Holiday: Shining and Natural English (Macmillan Cinema English Classic). Macmillan Languagehouse, 2009. 2,625 (tax included: with Class/ Self-Study DVD)

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中の 2 回の試験、授業中の小テスト、出席状況などにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者のメッセージ】 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。また、2 回行われる試験の実施日に注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200194>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(夜間主 (全 2~4 年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both spoken and written English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could,may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards
出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200346>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

3.2 《ドイツ語》 (German)

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h 総合科学部4号館4階)

【備考】◇旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語(2)◇ドイツ語, 本気の人歓迎.

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

(夜間主 (全 1~ 4年))

Introductory German

依岡 隆児・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】初級文法を習得しながら, 簡単なドイツ語を読み, 書き, 聞き, 話すことができるようになること. また, ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること.

【授業の概要】基本的な, 読む, 聞く, 話す, 書くという技能を, 初歩的な文法事項に絞ってドリル形式で練習しながら, 自然とドイツ語が身につくようする. また, 授業の合い間にドイツの映画やビデオを見せ, ドイツの文化や社会への興味を喚起し, 国際人としての教養を身につけられるように配慮する.

【キーワード】外国語, ドイツ語, 異文化理解, 比較文化

【到達目標】初級ドイツ語を使って, 簡単な文書を読み, 旅行に行つて困らない程度のコミュニケーション能力を養うことと, ドイツ語圏の文化についての理解を深めること.

【授業の計画】1. 授業ガイダンス, 前期の復習, ビデオ「ドイツ人がやってくる」 2. 8 課, 3 基本形, 過去形 3. 同上, ドリル問題 4. 9 課, 完了形, ビデオ「環境先進国ドイツ」 5. 同上, ドリル 6. 10 課, 再帰代名詞・再帰動詞, 前置詞, 映画「第3の男」 7. 同上, ドリル 8. 11 課, 形容詞の格変化, 映画「黒い稲妻」 9. 同上, ドリル 10. 中間テスト 11. 12 課, 比較, 映画「モモ」 12. 13 課, 関係代名詞 13. 同上, ドリル 14. 復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】大岩信太郎『新正書法版・身につくドイツ文法』, 同学社

【成績評価の方法】出席と授業への積極的な参加と適宜行うレポートや小テスト, 最後に行う期末試験により, 総合的に行う.

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】初めて習う外国語なので, 授業に集中し, 反復・継続を心がけてもらいたい. 外国語の習得を通して, 現代の世界へ目を開くようにしてもらいたい.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200720>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~12時50分)

【備考】ドイツ語を通して新しい世界に触れ, 自分たちの世界を見直すようにしてください. 楽しく, そして, 根気よく!

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(夜間主 (全 2~ 4年))

Elementary German

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (2)』)

【授業の目的】これまで学んだドイツ語のレベルアップ. 外国語を習得するため必要な四つの能力, 話す, 聞く, 読む, 書くをどうとうに鍛錬し, よりの確なドイツ語の表現を身につける. ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める.

【授業の概要】ドイツ語会話を通して, ドイツ語圏での文化, 習慣, 考え方, ライフスタイルなども紹介します. 日常的に使う文, 章, 言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり, 文法問題を解いたり, 聞き取り練習をしたり, 簡単な作, 文を作ったりします.

【到達目標】話す, 聞く, 読む, 書く, 基礎的なドイツ語の能力を身につける.

【授業の計画】1. オリエンテーション, 前期の復習 2. 持ち物, 指示代名詞, 不定代名詞, 否定代名詞の 4 格 3. 品物の感想, 形容詞 4. 住居, 部屋, 所有冠詞 5. 部屋, 家具の位置, 前置詞 6. 時刻と日付, 一日の生活, 分離動詞 1 7. 曜日, 月, 誕生日, 大学の年間予定, 分離動詞 2 8. 大学, 道案内 1, 副詞 (場所) 命令形, 小テスト 9. 交通手段, ドイツの大学, 前置詞 (方向) 10. 地図の読み方, 道案内 2 11. 休暇の計画 (活動, 場著, 期間, 同伴者) 12. 手紙の書き方, 話法の助動詞 13. 過去の表現, 天気, 季節 14. 日記, 現在完了形, ドイツ語で履歴書を書く 15. 定期試験 16. 纏めと質疑応答

【教科書】プリントを配布する.

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 出席, 宿題, 授業への取り組み状況をもとに総合的に評価する. 抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200736>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

線形代数学 II ... (夜間主 (全 1 年))/ 桑原 / 後期 火 13・14	40
微分積分学 II ... (夜間主 (全 1 年))/ 長町 / 後期 水 11・12	40

4.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

(夜間主 (全 1 年))

Linear Algebra 2

桑原 類史・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には、線形代数学の理解は欠かすことができないことである。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目指す。

【キーワード】 線形空間、線形写像、内積、固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0. ⇒20 頁)

【到達目標】 線形空間、線形写像の概念に基づき、ベクトル、行列の理解を深める。また、固有値や固有ベクトルを求め、行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】 1. 導入、ベクトル 2. 部分空間、部分空間 3. ベクトルの 1 次独立性 4. 基底と次元 5. 線形写像 (1) 6. 線形写像 (2) 7. 線形写像と行列 8. 内積空間 (1) 9. 内積空間 (2) 10. 固有値と固有ベクトル (1) 11. 固有値と固有ベクトル (2) 12. 行列の対角化 (1) 13. 行列の対角化 (2) 14. 行列の対角化 (3) 応用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著 「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満の者は再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】 講義中は集中して講義内容の理解に努め、自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200441>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II

(夜間主 (全 1 年))

Calculus 2

長町 重昭・教授/工学部
2 単位 後期 水 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握することを要求するようになっていく。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1 変数関数の積分学の基礎事項の理解を深め、さらに、2 変数関数の積分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】 基本的な初等関数の不定積分や定積分について講義する。さらに 2 変数関数については、2 重積分とその累次積分による計算法を講義する。

【到達目標】

1. 基本的な関数に対してその不定積分が求められる。
2. 簡単な 2 変数関数に対してその 2 重積分が求められる。
3. 2 重積分を利用して図形の体積や表面積が求められる。

【授業の計画】 1. 定積分 2. 定積分と不定積分 3. 不定積分の計算 4. 有理関数の不定積分 5. 無理関数の不定積分 6. 有限区間における広義積分 7. 無限区間における広義積分 8. 2 重積分 9. 累次積分 10. 積分順序の変更 11. ヤコビアン 12. 2 重積分の変数変換 13. 体積と表面積 14. 広義の 2 重積分 15. 後期テスト 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書: 大原一孝著 『実例で学ぶ微分積分』 学術図書出版
- ◇ 参考書: 伊東由文著 『解析学 (上)』 サイエンスハウス

【成績評価の方法】 テストを実施する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特になし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=200421>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 長町 (A 棟 205, 088-656-7554, shigeaki@pm.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 特になし)